

TOPICS

産業人材育成フォーラム 2020 香川大学実践型インターンシップ

香大生が、地元の企業で働く実践型インターンシップが行われました。従来の職場体験を主体としたインターンシップとは異なり、企業の一員となり、実際に問題となっている課題解決を共に取り組んでいきます。さて、参加した学生たちは、それぞれの企業でどのような活動をしたのでしょうか。

○四国旅客鉄道株式会社
(インターンシップ期間/ 2019.4.1 ~ 2020.3.31)

「魅力ある地域資源の発掘とそれに基づく旅行商品の造成」をテーマとして、東京の大学生の卒業旅行を対象に男木島ツアーを企画しました。

腕利きの漁師さんによる海鮮料理を食べたり、男木島図書館で実際に移住した方からお話を聞いたりして、都会の喧騒から離れてゆったりした時間を過ごすことができます。実際にこのツアーを東京の学生に売り込みに行き、営業の大変さも実感しました。

○香川県花き園芸協会
(インターンシップ期間/ 2019.8.1 ~ 2020.1.15)

若年層がより花に親しめるような活動を考え、フラワーバイキングやハーバリウムワークショップなど、体験型のイベントを行いました。活動の企画を通して、学生自身も活動前と比べて花に興味を持つようになり、知識を深めることができました。

○まとめ
インターンシップで得た貴重な経験を活かし、今後も様々なことに挑戦してください。香川大学生の幅広い活躍を期待しています。インターンシップに興味のある方は、キャリア支援センターまでお問い合わせください。

○高松市市民政策局政策課
(インターンシップ期間/ 2019.6.3 ~ 2020.3.31)

“すべての人が香川県の施設やお店が利用しやすくなるように”をコンセプトにしてユニバーサルデザインマップを作成しました。

ユニバーサルデザインマップを採用してくれる施設やお店もいくつかあり、誰にとっても住みやすい香川県に近づけたのではないのでしょうか。

○株式会社セリックス
(インターンシップ期間/ 2019.8.19 ~ 2019.9.6)

自動洗髪機の首を乗せる部分のデザインを一緒に考えました。利用者の体型によっても、素材によっても使いやすさが変わります。より多くの方に気持ちよく使っていただけるデザインを作ることの難しさを感じました。

私たちが取材しました

今回、私たちは「うどん県で楽しいをシゴトにする」という対流事業の一環で、香川大学広報室でのインターンシップに参加しました。広報室では、大学の魅力発信と報道機関関係者への情報提供や対応を主に行っており、地域と大学を繋げる役割を担っています。インターンシップの3日間では、大学紹介動画やSNS掲載用の写真を撮影して投稿したり、このカダイジェストの1頁を共同で制作したりしました。短い期間でしたが、今後の進路につながる大変貴重な経験をさせていただきました。この経験を活かし、これからも様々なことに挑戦したいです。



左から、稼勢敦貴(創工1年)、金谷侖紀(教育1年)、高瀬凛(創工1年)、千葉裕古(教育3年)、岩切思温(創工1年)



KADAIGEST 2020 2



香川大学
創造工学部長
末永慶寛
suenaga yoshihiro

発見、工夫、そして創造へ！香川の地で充実のキャンパスライフを！

あなたはなぜ大学に進学したのですか？という問いに、皆さん様々な理由があるでしょう。

私は、幼い頃から常に「海」をそばに感じる日本海沿いの漁村で潮風と波の音を枕に高校までを過ごした後、大学に進学しました。その頃の自分とはいうと、夢の他には何も持たないハングリーな学生でした。しかし、その夢の中には漠然としていましたが、海に関わる仕事がしたいという気持ちもありました。大学の講義で専門的な知識を増やしていくうちに、ものづくりへの興味が加速していったことは今でも明確に覚えています。やがて海を豊かにする技術開発に取り組むようになり、まさに一本の線から始まる様々な構造物を設計する日々を過ごしました。同時に水泳、ボクシングにも熱中しました。もちろ

ん学生生活での研究やプライベートでも多くの壁にぶつかり、辛い思い(失恋含む)も経験しました。

そこで、壁にぶつかったときにどう乗り越えてきたか？私は海外に行くことに活路を見いだしました。外から見た日本を体感すべく、海洋関係の国際会議の情報を集めて当時の指導教授の許可をもらい、海外での研究発表の場を重ねました。様々な場所で発表するたびに、もっと早くこの場所に来ておけば良かったと後悔もしましたが、それらの経験のすべてが「戻ってくる」ために必要な「離れること」であって、これによって壁を乗り越えることができました。

香川大学は、多様な学問分野を包括する「地域の知の拠点」として、個性と競争力を持つ「地域に根ざした学生中心の大学」をめざしています。学生時代は講義の内容が何の役に立つのか理解できない部分

も多いかもしれませんが、学生の皆さんに言いたいのは、無駄な講義は一つも無い！ということです。講義の一つ一つを大切に、香川大学でのキャンパスライフの中で、今まで何気なく見過ごしていたものがそうでなくなる機会の一つでも多くFeelしてください。その中から自分のオリジナリティを発見し、工夫し、そして創造へとつなげていってください。学生諸君が秘めたパワーを存分に発揮して社会課題を解決し、地域に貢献する人材になってほしいと願っています。



卒業研究の一例。講義で習った知識をもとに一本の線から始まって完成させた水産資源増殖構造物。右はトレーニング風景。



VOICE

学生だけで立ち上げた「香川大学防犯パトロール隊」—地域に安心感を与えたい



香川大学防犯パトロール隊 (江郷・左端前から3番目)

香川大学防犯パトロール隊は、学生だけで立ち上げた全国でも珍しい防犯ボランティア団体です。大学生の若さ・機動力を生かして、犯罪の被害にあう人を少しでも減らしたい、地域に安心感を与えたいという思いで発足しました。

主な活動のひとつはホットスポットパトロールです。これは、「犯罪が発生しやすい場所」を意味するホットスポットを重点的に巡回するもので、犯罪抑止効果が非常に高いとされており、私たちは夜に実施しています。

パトロール中にあったエピソードとして、自転車に二人組に声をかけようとすると、突然逃げ出したため追いかけたところ、その自転車が盗難品だったことがあります。不審者に遭遇することもあるため、パトロール時には班で行動し、班ごとに「班長」「通報員」「証拠記録員」などの役割分担をして、瞬時に対応できる体制を整えています。また指令本部を林町キャンパスに設置し無線機を装備するなどして有事の際に備えています。

日中は、登下校の見守りパトロールをしています。児童を狙った凶悪事件をきっかけに、子どもたちを守る活動をするべきだと思い、大学周辺の小学校や香川県と連携して見守り活動を始めました。また、小学校に伺い、児童に対して防犯教室などの出前授業も行っています。さらに、パトロールなどをただ行うだけではなく、犯罪心理学を研究する顧問の協力のもと理論面からも防犯について学んでいます。

いま、防犯ボランティアの世界は、高齢化と後継者不足が大きな問題とされています。ボランティア人口のうち大学生世代である若者が占める人口は、ほんのわずかです。それに加えて、私は認知度不足も感じています。防犯ボランティアと聞いて、パッとそのイメージが湧く人は多くはないのではないのでしょうか。そこで、大学生である私たちが、このさき何十年も活動を絶やさないようにすることが一番の使命ではないかと思っています。活動を続け、伝え続けることで多くの方にこの活動を認知してもらい、また若い世代のボランティア人口の増加に貢献できればと願っています。

私たちの活動は成果が見えづらい活動です。だからこそ、地域の方や立ち寄りのお店の方からの感謝の言葉や励ましの言葉が何よりも原動力となっています。また、新聞やテレビなどでも20回近く取り上げていただいております。誇りを持って活動ができています。そしてこれらの活動が評価され、なんと隊長である私は東京2020オリンピックの聖火ランナーに選ばれました。これからも、常に注目されるパトロール隊であり続けられるよう、隊員一同頑張っています。

法学部3年 江郷颯人



隊員に無線で連絡 指令本部は林町キャンパスにあります



婦人会との合同研修会で説明しました



大学で自転車の盗難防止に向けて鍵かけの啓発活動



パトロール前のミーティング、全員で準備体操も行います



登校時のパトロール 交通量の多い交差点では立ち止まって見守り



ごみが散らばっている… ホットスポットを発見!



商店街の方と警察官との三者合同パトロールに出発



警察官との合同パトロール これまでに8回ほど実施



駐車場を巡回、車上荒らし・精算機荒らしを警戒!



この日は見守りパトロールの取材が入りました!

EVENT



1/28
学長表彰式「防犯パトロール隊」代表の江郷颯人さん、加藤雄大さん、福田飛鳥さんが出席し学長から表彰盾が授与されました。表彰式後の懇談では日頃の苦労話や活動内容等について報告があり、学長からは功績を称えとともに激励の言葉が贈られました。



2/12
報道機関関係者との懇談会
報道機関関係者に本学の取り組みや活動計画について情報提供するとともに地域社会のニーズを把握し、本学の運営に活かすことを目的として約10年ぶりに開催。報道機関からは21名、本学からは19名が出席しました。



2/19-3/24
博物館特別展倉田貞美博士の業績
倉田貞美博士は生涯にわたり漢文学、特に清代末期から中華民国時代に至るまでの漢詩人の作品と時代背景を研究されました。1970年に香川大学学長に就任。本展では、「中國現代詩の研究」の直筆原稿や関連資料他を展示します。

from International Office



ちきゅう見聞録



オーストラリア・パース
農学部 新谷光雄
2019年8月19日から5週間、西オーストラリア大学での英語研修に参加



西オーストラリア大学付属の語学学校/アジアはもちろん南米や中東から、大学生だけでなく、英語を使って仕事をするために英語を学びに来ている社会人の方もいました。先生はとても熱心で親切、理解できるまで質問に答えてくれます。



他国の文化を生徒間の交流で知ったり、日本の常識はほかの国の常識ではないことに気づいたり、英語を話して相手に通じる喜びを感じることができました。滞在したのは1ヵ月でしたが、もっと長い期間ここで学びたいと思える場所でした。



フリーマントルマーケット / 金土日と建物の内部で開かれ、食べ物やドリンク、野菜、お茶の葉、アクセサリー、置物、手芸など多様な商品が売られています。市場の周りにもレストラン、カフェ、バーなど多くの飲食店が立ち並んでいます。

read more

